

令和7年度一般選抜前期日程入学試験問題 小論文C（社会選修）
評価の観点・採点基準・解答例

【評価の観点】

	問1	問2	問3
基礎的能力 (読解力・表記能力・表現力)	◎	◎	○
論理的思考能力	○	○	◎
教育に関する 興味・関心・姿勢			◎

【採点基準】

問1

- ① 日露戦争を画期とした場合の見方について本文の記述に沿って説明できている。
- ② 日清戦争を画期とした場合の見方について本文の記述に沿って説明できている。
- ③ 全体が論理的な文章になっている。

問2

- ① 朝鮮の植民地支配と対中戦争への認識について本文の記述に沿って説明できている。
- ② 帝国日本の対外行動を認めることについて本文の記述に沿って説明できている。
- ③ 全体が論理的な文章になっている。

問3

- ① 近代の日本と戦争について学校の授業で取り扱う場合の課題を明確に述べる事ができている。
- ② ①の課題に対して教師はどのように授業に取り組むべきと考えるか、筋道を立てて述べる事ができている。
- ④ 自らの考えを論理的に述べる事ができている。

【解答例】

問 1

日露戦争では朝鮮や中国は戦場として語られるのみで、東アジアにおける日本の隣国の姿がみえなくなってしまう。一方で台湾、樺太、遼東半島、朝鮮など東アジア地域の国々を植民地とした日清戦争は、日本が植民帝国に姿を変えた戦争であるため、近代日本の対外関係は日清戦争を起点に考える必要があると述べている。(146 字)

問 2

日本による朝鮮の植民地支配や対中戦争が相手側に甚大な被害を与え、国民的な誇りを傷つけたという事実を認識すること、また他の帝国主義国民と同じく、支配や侵略を正当な行為と考えていた帝国時代の日本と現在の日本を同一視せず、帝国日本の対外行動を否定して、誤りとして認めることが必要であると述べている。(146 字)

問 3

近代の日本と戦争について学校の授業で取り扱う場合の課題は、第一に、児童生徒が戦争に対して実感を持つことができない点、第二に、教師には戦争の事実を客観的に伝える知識と技能が必要になる点であると考ええる。

第一の点について、教師はできるだけ多くの資料を用いる、戦争体験者の語りを聞く、戦争記念館の見学の機会を設けるなどの活動を通して、児童生徒が主体的に考えることができるよう、実感を持つことができるように授業に取り組むべきと考える。そして第二の点について、教師は常に最新の研究成果など多くの知識を得るための努力をすべきと考える。多くの知識を得ることで、戦争におけるさまざまな事象を客観的に伝えることができる。授業では、教師個人の考えを押し付けるような内容にしないことも必要であろう。

なお授業では、戦争に対して実感を持たせるための映像や写真などの資料を使用することが想定されるが、戦争に関する資料は児童生徒の心に衝撃を与えるものも多い。安易に資料を活用することなく、児童生徒の発達段階に応じた適切な資料を用いることに注意する必要がある。そのためにも、授業を実施する教師の知識の深さは重要なものになると考える。(498 字)